

さつきフレンド ～子どもたちの「応援団」となる取組～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
守口市立 さつき学園	守口市立さつき学園学校運営協議会 平成30年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 4名 4名 地域コーディネーター 6名 3名	守口市立さつき学園 学校支援地域本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

以前からある学校支援地域本部、子ども会等の青少年育成団体やPTA、地域のコミュニティ協議会等が学校と連携し協力を重ね、将来を担う子どもたちのために様々な取組を行ってきたが、更に活動範囲を広げることを目的とし、「さつきフレンド」を立ち上げた。

目標や目指す姿(学校)

すべての子どもたちが世代を超えた人たちとつながり
生涯学び続け生きる力を育む

目標や目指す姿(地域)

地域力を生かせる場(空間)を活かし、様々な異年齢の交流活動
を通じ、学校とつながり応援する。



守口市立さつき学園学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 補導連絡会・保護司 代表 | <input type="checkbox"/> 地域コーディネーター |
| <input type="checkbox"/> 保護者・PTA関係者 | <input type="checkbox"/> 民生児童委員会 代表 |
| <input type="checkbox"/> 学校支援コーディネーター | <input type="checkbox"/> 有識者(大学教授) |
| <input type="checkbox"/> コミュニティ協議会 代表 | など、計 16 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 商店街代表 | 年間平均 5 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

学校運営協議会の運営をスムーズに行うため、事前に事務局会議を実施し、協議内容の確認等を行っている。また、年4回のさつきミーティングタイムを設け、地域の様々な意見を集約している。
設置当初はこれまでの支援活動に即した部会構成とし、委員をそれぞれの部会に振り分けていたが、部会の枠を取り外し、それぞれの取組に対して委員の役割分担を行うことで、より柔軟に多くの取組を実施することができるようになっている。



特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

より多くの人に「学校の応援団」になってもらえるよう、学校のニーズをあらかじめ聞き、「さつきフレンド」の募集方法について協議を行った。また、支援内容を細分化した「登録カード」の作成について協議する際、5年生の家庭科の授業補助が必要との結論に至った。



学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

活動ごとにメール募集を行い、柔軟に人材を充てている。5年生の家庭科でミシンを使用する際には、「さつきフレンド」の協力により、子どもたちが聞きたいときにすぐに聞ける体制を整えることができ、子どもたちにとってきめ細やかな指導ができるようになった。



5年生 家庭科裁縫の様子

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

- 登録者を増やすための「さつきフレンドボード」の作成・掲示、腕章の準備などの普及活動を推進している。
- さつきフレンドの登録者にアンケートを実施し、検証することでよりよい取組になるよう話し合いを行っている。
- 活動について保護者にも興味関心を持ってもらうため、学園だより等を利用し、活発な情報発信を行っている。
- 将来、地域の担い手となるであろう本校卒業生に「さつきフレンド」の登録を積極的に促している。

成果・効果

活動報告の手紙や(さつきフレンドの)腕章などでのPRや、地域の掲示板を活用して広報活動をしっかり行い、校区内企業、商店に協力を仰いでいく。いろいろな方に声をかけることで応援が増えていく。そうすることで、卒業生が在校生とコミュニケーションをとるようになり、若い世代がつながることで将来に役立ち、ひいてはさつき校区の活性化につながり、いきいきとした街、校区の風土となると思う。【さつきフレンドに参加している地域の方の声】

いつも朝早く私達を見まもってくれてありがとうございます。家庭科の授業で裁縫を教えていただいた方が優しく丁寧に教えてくれました。野球部でいつも指導していただき、ありがとうございます。【児童・生徒の声】

- ◆ 学校運営協議会を中心にして多くの地域住民が積極的に活動(さつきフレンド登録者数180名)し活躍している。児童生徒もさつきフレンドで関わっている大人に対し、感謝を伝えることができています。
- ◆ 地域との関わりに対して肯定的に捉えている児童生徒の増加により、地域や社会をよくするために考える姿勢が育まれている。

	指標①	指標②	指標③
	9年生	9年生	6年生
H30	23.0	23.0	44.5
R4	44.6	24.6	50.0

- ①「地域や社会をよくするために考えることがある」肯定的回答割合(%)
- ②「地域の大人に、授業等で勉強やスポーツを覚えてもらう」肯定的回答割合(%)
- ③「地域の行事に参加している」肯定的回答割合(%)